

指定演題について

(公社) 全日本鍼灸学会学術研究部は、学術大会ならびに研修会において、これまでのエビデンスをまとめたセミナーや先端の研究を紹介するシンポジウムなどを、企画してきました。

近年、注目されるべき領域やコンセンサスを得ておくべき事項が多く見られる様になりました。これらについて、議論を深めより高いエビデンスを構築していくことを目的に特に重要なテーマと課題について選定し、そのテーマと課題に関する内容の指定演題を募集することとなりました。多くの演題の応募をお待ちしています。

○愛知大会でのテーマと課題

1. 慢性痛

- ①慢性痛に関連する症状の予防効果や治療効果に関する検証
- ②慢性痛を訴える患者に他の介入を加えた際の効果検証

2. セルフケア

- ①鍼灸師の指導のもと、患者自身が市販されている温灸や円皮鍼など用いた際の満足度等に関する検証（アンケート調査を含む）
- ②鍼灸師の指導のもと、患者自身が市販されている温灸や円皮鍼など用いた際の予防効果の検証
- ③鍼灸師の指導のもと、患者自身が市販されている温灸や円皮鍼など用いた際の治療（緩和）効果の検証

○募集演題数

1 テーマにつき、4～5 演題を予定しています。なお、演題が募集数に達しなかった場合は、該当テーマの指定演題を取り止めます。その際は自動的に 発表形式を学会一任（口演発表もしくはポスター発表）に変更させていただきますのでご了承下さい。

○応募方法

平成 30 年 11 月 1 日（木）より従来通り、演題登録システムから一般演題 の募集を行います。発表形式を「指定演題」、発表区分（第 1 希望）を「51 その他（上記のいずれにもあてはまらないもの）」と選択していただき、それ以降は他の形式と同様に記入し、登録してください。なお、抄録の様式は一般演題に準じます。

○発表形式

発表形式は口演発表（発表時間：7 分、質疑応答：5 分）に準じ、全演題終了後に約 30 分の総合討論の時間を設けます。

○選考方法

総合討論の時間を確保するため、1 テーマに対する演題数を 4～5 演題とさせていただきます。演題は、一般演題と同様に抄録審査を行った後、採択された演題について、当該分野の専門家と学術研究部で選考させていただきます。

なお、一般演題に採択され、指定演題に選考されなかった演題については、自動的に発表形式を学会一任（口演発表もしくはポスター発表）に変更させていただきますので、ご了承下さい。

○座長

当該分野における専門家（鍼灸師・医師、基礎医学など）

○特徴

専門家である座長を交えて演者間で総合討論するところが特徴となっています。エビデンスを構築していく上での問題点や課題などを議論し、臨床や基礎にとらわれず、今後の鍼灸学の発展に寄与できることを期待しています。